



## 2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 カッパ・クリエイイト株式会社  
 コード番号 7421 URL <https://www.kappa-create.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田邊 公己  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 古賀 昌樹 TEL 045-224-7095  
 四半期報告書提出予定日 2021年8月16日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第1四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	16,535	21.5	△1,093	-	△1,041	-	△176	-
2021年3月期第1四半期	13,610	△28.0	△1,640	-	△1,595	-	△1,666	-

(注) 包括利益2022年3月期第1四半期 △160百万円 (-%) 2021年3月期第1四半期△1,670百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	△3.58	-
2021年3月期第1四半期	△33.78	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第1四半期	31,684	10,806	33.9	217.97
2021年3月期	32,007	10,967	34.1	221.57

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 10,753百万円 2021年3月期 10,930百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2022年3月期	-	-	-	-	-
2022年3月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2022年3月期の配当につきましては、現在、未定です。

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,866	13.8	1,119	-	1,171	-	1,446	-	29.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー 社 (社名) 、除外 ー 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年3月期1Q	49,414,578株	2021年3月期	49,414,578株
② 期末自己株式数	2022年3月期1Q	82,048株	2021年3月期	82,048株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年3月期1Q	49,332,530株	2021年3月期1Q	49,332,530株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、中国に続いて米国においても景気が急速に回復してきたことを背景に、自動車及び自動車部品や半導体関連製品の輸出が堅調に推移しました。一方、個人消費は高級ブランド品や高機能の家電製品など、一部の分野では回復がみられているとはいえ、感染力の強い変異株の拡大のため新型コロナウイルス感染症の影響が一向に収束しないことから、対面型の個人サービス消費を中心に弱含みの状態のままとなっております。

外食産業におきましては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置によって臨時休業や営業時間の短縮、酒類の提供制限等の要請を受けており、しかも休業・時短営業協力金や雇用調整助成金の申請手続きが煩瑣なことに加え、その支給が大幅に遅れております。更に外出自粛の影響で来店客数が相変わらず減少し、外食から内食へのシフトが進んでいるなど、非常に厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社の主力事業である回転寿司事業におきましては、コロナ禍においても安心してお食事をお楽しみいただける店舗づくりに取り組んでおります。直近で改装した店舗につきましては、自動案内システムやセルフレジ・ご自身のスマートフォンがタッチパネル替わりになる「スマホオーダー」を導入し、非接触化型のサービスを強化しております。今後も随時各店に導入を進めて行く予定です。店内の感染予防対策においては、従業員の健康管理、マスクや手袋着用の実施、アルコール消毒液の設置、ソーシャルディスタンスの確保などを引き続き実施しております。また、政府・各地方自治体からの時短営業や酒類販売制限の要請に対しては当然に従い、一部の自治体で行われている飲食店における感染防止認証制度を積極的に認証取得しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は165億35百万円(前年同四半期比21.5%増)、営業損失は10億93百万円(前年同四半期は営業損失16億40百万円)、経常損失は10億41百万円(前年同四半期は経常損失15億95百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億76百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失16億66百万円)となりました。

次に事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

#### <回転寿司事業>

回転寿司事業におきましては、強い来店動機を促すメニュー施策「どまんなかネタ」として、4月は「100円大とろ」「メガ盛りこぼれいくら」、5月は「100円うに包み」「中とろ二枚羽織」、6月は「大切り生銀鮭」「天然ばたん海老」などの販売とともに、全国にテレビCMを放映し来店客数の回復に取り組みました。

5月末からは、回転寿司チェーンでは初めてとなる単一ブランド米「山形県産 はえぬき」を採用し、シャリを全面的にリニューアルしました。今回のシャリのリニューアルに関しては、外部の専門家の意見も取り入れ、店舗の炊飯オペレーションから見直しを行っております。

また、昨年10月より一時休止をしておりました食べ放題企画「食べホー」を5月よりメニュー・価格も見直した上で、期間限定で復活させており、多くのお客様にご利用いただいております。

コロナ禍において引き続き好調に推移しているテイクアウト・デリバリーについては、期間限定メニューの販売や20%OFFキャンペーンを断続的に実施し、安定した売上獲得に貢献しております。外部デリバリーサービスについては、Uber Eats・出前館の他に、6月よりDoorDashにも出店し順次販売チャネルとエリアを拡大しております。

店舗オペレーションにおきましては、シャリのリニューアルに合わせて研修会等を行い、よりお客様に美味しいお寿司を提供するべく店内調理技術を強化いたしました。また、ピークタイムのウェイティング・タイムの短縮に向けて作業内容や人員配置の見直し等を行い、改善を進めてまいりました。

以上の結果、回転寿司事業の売上高は、130億2百万円(前年同四半期比19.8%増)となりました。

#### <デリカ事業>

デリカ事業におきましては、コンビニエンスストアを中心とした寿司弁当、調理パン等の新規取引先の拡大、既存顧客の販売強化及びコスト構造の見直しに取り組んでおります。

以上の結果、デリカ事業の売上高は35億32百万円(前年同四半期比28.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結累計期間における総資産は316億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億23百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が4億24百万円増加、売掛金が8億4百万円減少、商品及び製品が33百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期連結累計期間における総負債は208億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億62百万円減少いたしました。これは主に、買掛金が5億26百万円減少、未払金及び長期未払金が3億15百万円増加、資産除去債務が29百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結累計期間における純資産は108億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億61百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失1億76百万円により利益剰余金が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年4月30日の「2021年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,924	8,349
売掛金	3,367	2,562
商品及び製品	326	292
原材料及び貯蔵品	307	344
その他	1,827	2,267
貸倒引当金	△4	△2
流動資産合計	13,749	13,813
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	27,320	26,949
機械装置及び運搬具	5,235	5,397
工具、器具及び備品	6,714	6,900
土地	2,355	1,902
リース資産	1,625	1,567
建設仮勘定	3	49
減価償却累計額	△31,090	△30,879
有形固定資産合計	12,164	11,888
無形固定資産	263	246
投資その他の資産		
投資有価証券	852	851
敷金及び保証金	4,297	4,212
繰延税金資産	489	495
その他	137	129
貸倒引当金	△9	△9
投資その他の資産合計	5,767	5,679
固定資産合計	18,195	17,814
繰延資産		
社債発行費	63	55
繰延資産合計	63	55
資産合計	32,007	31,684

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,337	2,810
短期借入金	4,000	4,000
1年内返済予定の長期借入金	180	180
1年内償還予定の社債	1,720	1,720
未払金	2,416	2,636
未払費用	1,547	1,520
リース債務	110	99
未払法人税等	103	45
賞与引当金	116	116
株主優待引当金	185	265
店舗閉鎖損失引当金	2	—
その他	779	841
流動負債合計	14,497	14,236
固定負債		
社債	2,185	2,185
長期借入金	730	730
長期未払金	1,946	2,042
リース債務	81	59
資産除去債務	1,465	1,494
その他	133	129
固定負債合計	6,542	6,641
負債合計	21,040	20,877
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	12,227	10,995
利益剰余金	△1,317	△262
自己株式	△77	△77
株主資本合計	10,932	10,755
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2	△2
その他の包括利益累計額合計	△2	△2
非支配株主持分	37	53
純資産合計	10,967	10,806
負債純資産合計	32,007	31,684

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	13,610	16,535
売上原価	6,806	8,466
売上総利益	6,803	8,069
販売費及び一般管理費	8,443	9,162
営業損失(△)	△1,640	△1,093
営業外収益		
受取利息	10	9
受取配当金	35	55
受取家賃	60	55
自動販売機収入	7	8
協賛金収入	8	1
雑収入	6	10
営業外収益合計	128	140
営業外費用		
支払利息	10	20
社債利息	8	7
賃貸収入原価	52	50
雑損失	12	9
営業外費用合計	83	88
経常損失(△)	△1,595	△1,041
特別利益		
固定資産売却益	—	219
助成金収入	—	908
特別利益合計	—	1,127
特別損失		
固定資産除却損	17	51
臨時休業等による損失	12	155
特別損失合計	30	207
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,625	△120
法人税、住民税及び事業税	45	45
法人税等調整額	—	△6
法人税等合計	45	39
四半期純損失(△)	△1,670	△160
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	16
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,666	△176



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純損失(△)	△1,670	△160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△0
その他の包括利益合計	0	△0
四半期包括利益	△1,670	△160
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,665	△177
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	16

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムにかかるポイント負担金について、従来は販売費及び一般管理費として計上していましたが、ポイント負担金を差し引いた金額で収益を認識することとしております。また、販売奨励金について、従来は販売費及び一般管理費として計上していましたが、取引価格から販売奨励金を差し引いた金額で収益を認識することとしております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の売上高が116百万円減少し、販売費及び一般管理費は116百万円減少しております。

収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、期首の利益剰余金に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。